

インターバンクの声（2016年2月22日）

週末、ニューヨーク市場朝方に発表された1月の米消費者物価指数は、変動幅の大きい食品とエネルギーを除いたコア指数が4年5ヶ月ぶりの大幅な伸びとなる0.3%上昇となった。発表直後、ドルは主要通貨に対して直ぐに上昇する反応を見せたが、それから30分も経たない内に発表前の水準まで反落してしまった。特に円やユーロに対しては5~10分後にはドル売りに戻ってしまっており、今回の結果だけでは消えかけている3月の利上げの可能性を再度引き上げるところまで至らなかったようだ。先に始まっていた欧州市場では、暴落ではないものの欧州株価が下げて始まっていたし、原油価格の値下がりも続いていたことで、市場は大勢に変化なしとの受け止め方が勝ったのだろう。この後、米エネルギー情報局（EIA）からは米国国内の原油在庫が1930年以来の最高水準まで積み上がっていることが発表された。株安と原油安に明確な歯止めが掛かるような兆候が見えてくるまでは、どうしても相場の反発は単発的になることが続きそうだ。ただ、CPIの発表後に米国の短中期金利が若干上昇しており、今週も数多く発表される米経済指標の内容には注意が必要だろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。